

第 33 回東北建築賞作品賞選考報告

選考委員長 小山 祐司

1、応募作品

- ・小規模建築物部門 10 点
- ・一般建築物部門 12 点
- 計 22 点

2、選考経過

(1) 事前打ち合わせ会議 2012 年 9 月 19 日 (水) 13:30 ~ 15:00

於 日本建築学会東北支部会議室

選考委員長の選出、東北建築賞作品賞募集要項、選考委員会規則などを確認した上で、応募作品の数とその内訳を確認した。東北建築作品発表会の運営方法及び東北建築賞作品賞の選考基準などについて事前打ち合わせを行った。

(2) 東北建築作品発表会 2012 年 10 月 6 日 (土) 10:00 ~ 15:30

於 せんだいメディアテーク 7 階スタジオシアター

第 23 回東北建築作品発表会において応募 22 作品の発表が行われた。限られた発表時間の中でそれぞれのコンセプトが紹介され、発表会は全体として滞りなく進められ終了した。時間厳守にご協力いただいた発表者、諸氏に敬意を表したい。

(3) 第 1 次審査会 2012 年 10 月 6 日 (土) 15:45 ~ 17:00

於 せんだいメディアテーク 2 階会議室

東北建築作品発表会終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を選定することを目的として、第 1 次審査を行った。①企画力、②技術力、③地域への貢献・文化度、の選考基準を前提とし、2 次審査対象作品として、約半数の 10~12 作品を選定するため、発表された作品について部門に関わらず 1 人 8 点ずつ投票を行った。その結果から、4 票以上獲得した 12 作品を通過作品とし、3 票を獲得した作品について議論し通過作品に加えた。得票数が 2 票、1 票、0 票の作品を落選とした。

以上の結果、小規模建築物部門 6 点、一般建築物部門 7 点の合計 13 点を第 1 次審査通過とした。

次に、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 13 作品について現地審査の分担を決め、現地において確認すべき点を検討し、作品管理者との連絡を含めた現地審査の日程調整は事務局を通して行う事とした。

なお、1 次審査の落選者へは 200 字程度の講評を審査委員分担で作成し、審査委員会として送付することを確認した。

(4) 現地審査

現地審査については11月初旬から2次審査会(2013年1月27日)までの期間中で選考委員で分担して現地審査が行われた。

(5) 第2次審査 2013年1月27日(日) 13:00 ~ 16:30

於: 日本建築学会東北支部会議室

最初に第2次審査に進んだ13作品のうち1作品が諸事情により現地審査を辞退した旨が事務局より報告された。この作品を除いた12作品を第2次審査対象としたことが確認された。小規模部門作品について、一作品ずつ、現地審査担当者から写真スライド等により報告を受けた後、作品についての質疑や審査委員の評価ポイント等についての討議を全審査員で行い、1人2作品を投票した。8票と9票を獲得した2作品を全会一致で作品賞として選定した。引き続き、一般部門について同様に報告、討議を行い、1人4作品以内を投票した。その結果、8票以上獲得した4作品を作品賞として全会一致で選定した。小規模部門で3票を獲得した作品について特別賞として相応しいかどうか慎重に審議を行い検討したが、特別賞には至らないという結論になった。

以上の審議により、小規模部門については作品賞2点、一般部門については作品賞4点が入賞作品と決定した。

(6) 選考結果

作品賞 6点

HOUSE - M

【所在地】山形県山形市

【設計監理】東北芸術工科大学 竹内昌義・馬場正尊・亀岡真彦・中村聡志

【施主】三浦秀一

【施工】三浦建築・ソーラーワールド・ぜいたく屋・下山製材・庄司製材所

冬日の家(ふゆびのいえ)

【所在地】青森県弘前市

【設計監理】蟻塚学建築設計事務所 蟻塚学

【施工】(有)長谷川工務店

由利本荘市文化交流館 カダーレ

【所在地】秋田県由利本荘市東町15

【設計監理】総括・建築:新居千秋都市建築設計

構造:ARUP

設備:森村設計

劇場コンサルティング:シアターワークショップ

音響コンサルティング:永田音響設計

- 【施 主】 由利本荘市
【施 工】 建築本体：戸田建設
 西外構：村岡建設工業
 東外構：長田建設

八戸ポータルミュージアム はっち

- 【所在地】 青森県八戸市三日町 11-1
【設計監理】 建築：針生承一建築研究所・アトリエノルド・アトリエタアク設計共同体
 構造：星野建築構造設計事務所
 設備：総合設備計画東北事務所
【施 主】 八戸市
【施 工】 建築：寺下・大館・高橋・小幡特定建設工事共同企業体
 給排水衛生：テクノ・三久特定建設工事共同企業体
 空調：坂本建設工業・八戸設備・葵工業特定建設工事共同企業体
 強電：興陽・京谷・河原木特定建設工事共同企業体
 弱電：和井田・創電特定建設工事共同企業体
 展示：丹青社

東北大学 片平キャンパスA I MR本館

- 【所在地】 宮城県仙台市青葉区片平 2-1-1
【設計監理】 建築：東北大学キャンパス計画室＋施設部、三菱地所設計
 構造：三菱地所設計
 設備：総合設備計画
【施 主】 国立大学法人 東北大学
【施 工】 建築：戸田建設東北支店
 空調・衛生：三建設備工業東北支店
 電気：東光電気工事東北支社

白河市立図書館

- 【所在地】 福島県白河市道場小路 96-5
【設計監理】 建築：第一工房
 構造：ARUP
 設備：環境エンジニアリング
 照明コンサルティング：ARUP
 外構：カネミツヒロシセッケイシツ
 サイン：氏デザイン
【監 理】 ふくしま市町村建設支援機構
【施 主】 白河市
【施 工】 建築：県南・三金特定建設工事共同企業体
 空調・衛生：山田・白河特定建設工事共同企業体
 電気：車田・白河特定建設工事共同企業体
 外構：福島県南土建工業

(7) 講評

【HOUSE-M】

本住宅は実用的なエコハウスを志向した木造住宅で、山形市の中央部に位置し、畑等の空き地が散見される閑静な環境に囲まれています。山形県産の杉の横板張りの外装は、築後1年余りということもあり表面の色合いのばらつきはあるものの、周囲に溶け込んだものでした。外壁、屋根および基礎部分の断熱や開口部の仕様は、よく工夫され、実用住宅として考えうる最高の仕様となっています。このような高断熱仕様による室内環境は、アクティブな手法では得られないマイルドな快適性を提供するもので、住まい手の立場に立った空間構成と共に、住んでみたいと思わせる住宅となっています。太陽熱利用温水器、太陽光発電、薪ストーブなど無理のない範囲で再生可能エネルギーが利用されていることも評価したいと思います。

実用住宅ではありますが、今後、エネルギー消費量や室内環境などについて、計測、公表されることを期待したいと思います。

【冬日の家（ふゆびのいえ）】

この住宅は、地方都市の伝建地区の位置する住宅です。寒冷地では積雪などの理由から一般的に閉鎖的な住宅になりやすい中で、東西方向に3つの層を設定し、木製の可動間仕切りとサッシにより季節的にフレキシビリティの高い生活空間が提案されています。特に南側に面する「使う庭」に接するサンルームとリビングは一体的な空間として計画され、冬季においても高度の低い日照を取り込んだ開放的な生活を可能にしています。また、ウォークインクローゼットを介してつながるリビングと子ども部屋の機能性と回遊性、通り土間を介した客間では、庭に対して開口部を絞り視覚的なつながりと連続性を実現しています。また、無落雪を前提とした陸屋根と水平に広がる軒裏のデザイン。東北地方では珍しい焼き杉による外壁を用い、近隣の伝建地区の街並みとも関係を構築し調和を生み出しています。

多雪地域における単なる質の高い住宅の提案を越えて、通常、制約条件になりやすい雪と冬季の日照を巧みに取り込み、冬の日常的に開放的な風景を新たに生み出す設計者の手腕は、審査会においても高く評価されるとともに今後の活躍が大いに期待されます。

【由利本荘市文化交流館 ガダーレ】

本計画は、地方都市に立地する劇場、図書館、プラネタリウムを中心とした複合型公共文化施設として、設計者の経験と意欲的な試みが随所に具現化されています。

各施設の機能が高い水準にデザインされているだけでなく、敷地周辺に対して様々なアクティビティが展開可能な空間構成となっている。特に施設全体の空間の骨格であるわいわいストリートは、各階の活動がヴォイドを通じて伝わる構成となっており、日常的な賑わいが生み出されています。また、ホールゾーンは、地域のイベントなどでは、客席可

変システムにより、長さ約 135mに及びダイナミックに周辺街区とつながる非日常的な祝祭空間として機能します。また、設計プロセスにおいては、設計者がこれまで手掛けてきた参加型プロセスの設計手法を積極的に活用し、地域の文化活動団体の利用を促し開館後の高い利用率につなげていることも評価の対象となりました。これらを含め、衰退化が進展する地方都市の中心部に新たな息吹を持ち込む設計者の意図が高いレベルで成功しています。

以上の理由から、地域における新たな公共文化施設の解として審査においても高く評価され、東北建築賞に推挙する水準に到達しています。

【八戸ポータルミュージアム】

古くから城下町として栄えた八戸は他の地方都市同様、空き店舗が目立ち衰退しかかっています。その中心市街地に、市が八戸の観光や文化を見直し、その魅力を紹介する施設の提案を全国に求めました。完成した建築は祭りの極彩色な山車に見られるようにカラフルな色彩を好む地域性が商店街をも染めている中であって、コンクリート打放しとガラスでつくられ、街の黒子に徹しているように見えます。しかし、外壁に組み込まれた自動給水システムを持った壁面緑化によって、春夏秋はこの建築が通りに自然の彩をまとうことも写真で確認できました。内部は中庭を中心に、エスカレータを使って全館を自由に体験できるシンプルな構成です。街に向かって開かれた1階のハッチ広場に市民が集い、八戸に残る横丁の雰囲気内部にもにぎやかに展開しており、観光客と市民どうしの交流、創造の拠点をつくるという目的が、市側の積極的な場の作り込みによって高いレベルで成功している印象を持ちました。建築家が八戸市や市民とワークショップを重ねながら、必要とされる役割をきっちりと果たし街の活性化に大きく寄与しています。

【東北大学 片平キャンパスAIMR本館】

本建築は、東北大学片平キャンパスの事実上の表玄関といえる北門のゲートの機能を有するものです。その建替えにあたっては、街並みを構成する歴史的な外壁を残しつつ、内部は完全に新しくするという方式が採られました。

建物本体は、オフィス棟とラボ棟から構成されていて、その二つの棟がガラス屋根の架けられたアトリウムによって接続されています。このアトリウム空間は、二棟の廊下を互いに向かい合わせにし、また二階以上を一部階段状にセットバックさせています。それにより、自然光がガラス屋根から全体に差し込む明るい空間になっており、また人の動きが水平方向にも垂直方向にも感じられる一体性活動性ある空間にもなっています。また、中庭に面している南側については壁面緑化がなされ、夏季は緑のカーテンによる日射遮蔽が意図されているなど、環境にも配慮したデザインとなっています。

このように、本建築は歴史性と機能性がうまく調和したものに仕上がっており、東北建築賞にふさわしいものと認められます。

【白河市立図書館】

JR 白河駅近く、東北本線と市内の主要道路に挟まれた平坦な敷地に建つ、100m 近い幅の勾配屋根をもつ建物で、図書館としての機能のほか、多目的ホールや会議室などの市民活動・交流の場を有する施設です。建物内部は、特徴である大屋根を張弦梁とすることで、曲面天井を有する開放感のある空間となっており、多くの人々が快適に利用できる場となっています。人口 6 万人余りの白河市の中で、1 日の利用者は平均 1,000 人を超え、開館して間もないにもかかわらず、すでに街の新しいランドマークになっています。また、建物の前庭は、誰もが気軽に散策できる並木道となっており、図書館を利用する人以外にも、多くの人々をこの場所に引き寄せることを意識した設計となっています。

調査時も建物周辺の賑わいが感じられました。この建物を中心に新しい街並みが形成されつつあり、地域の活性化に貢献できているとして高く評価できます。

第 33 回東北建築賞作品賞選考委員会

選考委員長 ・ 小 山 祐 司 東北工業大学ライフデザイン学部
安全安心生活デザイン学科

委 員 ・ 船 木 尚 己 東北工業大学建築学科
・ 最 知 正 芳 東北工業大学建築学科
・ 菊 田 貴 恒 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻
・ 坂 口 大 洋 仙台高等専門学校建築デザイン学科
・ 三 宅 諭 岩手大学農学部共生環境課程
・ 竹 林 芳 久 東北学院大学工学部環境建設工学科
・ 須 田 眞 史 宮城学院女子大学学芸学部生活文化デザイン学科
・ 阿 部 直 人 (有) 阿部直人建築研究所
・ 田 畑 光 三 (株) 田畑建築設計事務所
・ 姥 浦 道 生 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻